

**中央教育審議会 初等中等教育分科会
幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会
—第 8 回会議の主な意見等の整理—**

(架け橋プログラムの課題)

- モデル事業と全国的な取組が同時並行であるはずだが、ある自治体の話ではモデル事業が終わってから 3 年たってから何かやるということだった。まだ始まったばかりであるため周知が難しいかもしれないが、それぞれの市町村が何をすればいいのかというのが手引きに分かりやすくあると自分事になるのではないか。
- 公立・私立の違いや就学前施設の類型がたくさんある中で、これらを集約するのは難しい。まずは公と民が一緒にスタートしなければならないのではないかと、ということについて悩んでいる。
- 全ての 5 歳児と掲げている以上、各自治体で行われる架け橋プログラム開発会議や調査研究における協力園へのメンバーに、公立ばかりではなく私立の幼稚園、認定こども園、保育園もバランスよく入っているような事例を期待。都心では新しい保育園が増えているが、昔からの公私立園に交流が偏っていて、新設園などは蚊帳の外に置かれがちになっているのが現状。
- 事例の目標が低過ぎて、簡単なためモデルの成果が上がらなかつたり、逆に目標が高過ぎて現実的でないものがあったりするなど、今後、事例が挙がる中で考えていく必要がある。きれいな取組事例より、改善点や葛藤、プロセスの中で、他の自治体からヒントをもらう方が次に進みやすくなる。
- 成果検証というのが項目としてあるが、いろいろな機関や自治体が取組んで、それぞれが成果を報告してくると思うところ、全てが共通している必要はないが、共通した枠組みというのは必要ではないか。
- 架け橋プログラムによって、みんなと一緒にやれないから駄目なんじゃなくて、その子たちに寄り添ってあげたりとか、子供が変わっていたりとか、先生もそこで授業を変えていったりとか、そういう営みが本当は大事なのだということが知れ渡っていくといいと思っている。
- それぞれの地域性や特色に違いがあるが、それによって地域差や温度差を生み出さないように注意する必要がある。基本的な考え、基盤や方向性はみんな同じであるべき。特に、特別な配慮を必要とする子供たちとか、外国人の子供たちとか、多様性についての課題を挙げている現場の先生が多い。現代の 1 つの教育課題であることを共通理解としてみんなで持つべき。

(幼児教育アドバイザーや架け橋コーディネーターの役割の明確化等)

- 幼児教育センターなどの統括された中枢機関があるところやないところがある。また、幼児教育アドバイザーや架け橋コーディネーターなどの役割を明確にし、実力のある方々が要となって動いてほしい。